



発行
宮崎県立高鍋高等学校
同窓会

宮崎県児湯郡高鍋町
大字北高鍋4262

TEL 0983・23・0005
FAX 0983・23・5096

URL <http://www.narumigaoka.jp/>

退任挨拶

前会長 増田 秀文



平成30年
度のOB祭
も大盛況の
もと、無事
に終わるこ
とができました。

今年、平成7年卒の実行委員会の皆様方に担当をしていただき、茂木健一郎氏の講演や懇親会にも多くの方々の参加をいただき、素晴らしいOB祭が開催でき、大変嬉しく思っています。

ゴルフ大会におきましては、天候の不順で中止も考えられましたが、時間を遅らせて開催することができ、安心をいたしました。参加者の皆様のご協力に感謝申し上げます。また近年OB祭に在校生の文化部の皆様方の参加が定着をし、私共OBと在校生とのかわりを強く感じることができ、このことでOB祭の意義もさらに高まったと思えます。

OB祭も毎年素晴らしいものとなり、まさに高鍋高校同窓会が誇りとする事業であります。毎年OB祭を主管していただきました、担当年度の実行委員会の皆様にも心からお礼申し上げます。
8月12日OB祭当日の

「鳴海ヶ丘会」総会におきまして、会長の座をおりることになりました。平成22年に前会長の岩岡保宏氏よりバトンを受け、母校高鍋高校の同窓会会長に就任をさせていただき、8年間務めさせていただきました。

この間、全国のOBの皆様方や歴代学校長をはじめ、先生方や理事、役員、評議員の皆様方として事務局の先生方に支えられ、今日を迎えることができたことに、改めて感謝を申し上げます。

高鍋高校同窓会は3万人を超える会員の方々がおられ、皆様方の母校を思うその気持ちはとても強いものがあると感じました。

県外に4支部、県内に10支部ある支部組織もしっかりとまとまり、それぞれに活動をされ、その組織力はとても力強く、どこにも負けない誇りに思える素晴らしい同窓会だと思えます。

在任中には「高鍋高校創立90周年」を経験させていただきました。高鍋高校の伝統を垣間見た気がいたしました。また「明倫奨学金」制度も確立でき、7名の奨学生も誕生いたしました。彼らのこれからの活躍がとても楽しみです。

大きく成長をされ、母校の為、地域社会の為に貢献されることを期待いたします。また今年、「特別奨学金」制度も皆様のご理解を頂き成立することができました。またその基金は多くの同窓生の皆様からの寄附金であり、感謝の

気持ちでいっぱいです。心よりお礼申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

高鍋高校も少子化、学区制の撤廃等により生徒の数が少なくなっています。多くの中学生が高鍋高校入学を目指す、そんな魅力あふれる高校であって欲しいと願っています。「文武両道」これこそが高鍋高校のモットーであり、在校生の皆さんには大きな目標をもって充実した高校生活を送って欲しいと思います。

2022年には高鍋高校も創立100周年を迎えます。歴史と伝統を大切に、これからも高鍋高校がさらに飛躍をし、輝かしい母校であることをお願い、これからの高鍋高校同窓会のさらなる発展を心よりお祈りいたします。

私の後任として昭和51年卒の岩切正司氏が会長を務め、新しい役員も決まりました。私共同様にご厚情賜りますようお願いいたします。これまでの皆様方のご支援助とさせていただきます。ありがとうございます。



新任挨拶

新会長 岩切 正司



この度、8月の総会におきましてご承認を賜り、同窓会会長を務めさせていただきますことになりました。増田会長におかれましては、8年間にわたり会長としてご尽力いただいた事、衷心より厚くお礼申し上げます。

大正12年（1923年）の高鍋中学校の開校以来全国各地に約3万の同窓生の皆様がおられます。歴史と伝統ある鳴海ヶ丘会の会長を務めさせていただく重責に身の引き締まる思いであります。

私自身同窓会における活動が乏しく少なからずの不安を感じておりますが、増田前会長、岩岡前々会長の実績を踏襲しつつ、経験豊かな副会長の皆様や支部長の皆様の協力をいただきながら、当会に新たな風を送り込みたく考えております。

鳴海ヶ丘会の基本的活動は、高鍋高校卒業生同士の交流が活発に行われ親睦がさらに深まることと感じております。地元高鍋支部を中心に県内一円の各支部と「在京支部」「名古屋支部」「関西支部」「福岡支部」それぞれの地域で同窓会が開催され、多くの同窓生が参加し、母校での懐かしい思い出に花を咲かせ、今後の高鍋高校のさらなる発展を皆で心から願ひ、高鍋高校卒業生であることを誇りに思える。私もこうした理想的な会の姿に近づくと活動してまいります。

母校高鍋高校は4年後に創立100周年を迎えます。この記念すべき節目の年を、私

ども同窓会として心からお祝いし、様々な記念事業が円滑に執り行われるよう素地づくりに取り組みたいと考えております。

鳴海ヶ丘会総会

平成30年8月12日（日）、ご来賓をはじめ61名が出席して高鍋高校同窓会鳴海ヶ丘会総会をたかしんホール（高鍋中央公民館）にて開催し、6議案が承認されました。議案のひとつ「役員改選」について、次の通り承認を得ましたのでここに報告致します。

第3号議案「役員改選」

- | | |
|-----|--------|
| 会長 | 増田 秀文 |
| 副会長 | 富田 美智子 |
| 副会長 | 橋口 清和 |
| 副会長 | 岩切 正司 |
| 副会長 | 米田 礼子 |
| 副会長 | 新名 洋文 |
| 副会長 | 山中 広美 |
| 副会長 | 多賀 学昭 |
| 副会長 | 石田 喜克 |

新役員体制は、会長1名、副会長5名になります。（前役員体制は会長1名、副会長4名）

退任されました増田会長、富田副会長、橋口副会長、鳴海ヶ丘会発展のためご尽力いただきありがとうございます。岩切会長のもと新役員体制となる鳴海ヶ丘会と、100周年を迎える母校高鍋高校の、さらなる発展と躍進のため、今後も会員皆さまのご指導、ご鞭撻、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



なんきんばぜ

本年度、事務局長の任に就いている。今までは、自分のことと手一杯。同窓会事務局としての仕事はほとんど手伝えにいたが、今年の異動でOB職員が一気に4人も減り、わがままを言うてられない状況になった。残されたOB職員の中、誰かがこの仕事をしなくてはならなくなったのだが、みんなそれぞれ業務の忙しさを分擔・協力して運営しているというところで、何とか乗り切ってい

る。昨年度まで、ほとんど一人での仕事をこなしてきた前任の猪股先生には、感謝と尊敬の念しかない。母校に勤務できる喜びを常に感じ、恩返しをしていきたい。

2年前、OB祭担当の学年で、同期の仲間と再会し、みんなの母校愛を再確認し伝統を繋いだ。昔話に花を咲かせ、実行委員長を中心にOB祭を成功させようと仕事帰りの遅い時間に何度も会議を重ね団結した。そして会の終わりに必ず校歌と応援歌をラジカセで流し、青春時代を回想しながらみんなで歌った。余談になるが、私の高校時代は試合前には必ず肩を組んで涙を流しながら応援歌を熱唱してグラウンドに入っていた。学校行事の度に歌う応援歌にも自然と熱が入り、大きな声で手を突き上げて感極まっていたものだ。でも今は吹奏楽部の生演奏に生徒の声はかき消されている。あの頃の感動を後輩達には伝えていきたい。最後に、同窓会の会議を通して感じていることを。本校卒業後は学年の代表として評議員と呼ばれる方が男女1名ずつ存在する。年に数回、高鍋町内で開催される会議の案内が往復はがきでその方達に届くようになってきているのだが、特に若い世代は参加の有無どころか、返信も貰えない場合が非常に多い。高鍋高校同窓会に、繋がり稀薄化は似合わない。高鍋高校創立100周年のビッグイベントを数年後に控えた今、愛する母校の為に一致団結し、高鍋高校OB諸氏の底力を魅せ、伝統を繋ぎ、そして新しい時代の幕開けへ。そう願ってやまない。（檜室秀幸）

退任

前副会長 橋口 清和



十数年間
にわたり税
田前々会
長、岩岡前
会長、増田

会長と伝統ある高鍋高校同窓会鳴海ヶ丘会の副会長という大役を務めさせていただきました。創立80周年、創立90周年事業にも携わらせていただき、数々の貴重な体験をさせていただきました。特に「明倫奨学金制度」設立に携わらせていただいたのは、何か現役の生徒にお返しできるものはないのかなどと考え、提案させていただいた最も興味深い事業の設立でした。今、思えば高鍋高校の偉大さを知ったのがOB祭実行委員長をさせていただいた時でした。高鍋高校のOB会が、諸先輩方の高鍋高校を思いやる心が満ち溢れた素晴らしいシステムなのだということに気が付かされ、同窓会の素晴らしさを認識いたしました。その後、PTA会長もさせていただき、そして、同窓会の副会長として長きにわたりわが母校高鍋高校に微力ながらお仕えできたのかなど考えています。これまで支えていただき、同窓会の諸先輩方をはじめ、学校関係者、同窓生の皆様、その他関係各位の皆様へ心より感謝申し上げます。

前副会長 富田美智子



この度の役員改選で副会長を退任させていただきます。

6年間の任期中は、鳴海ヶ丘会の皆様、先生方に大変お

世話になりました。心よりお礼申し上げます。私もずいぶん以前にOB祭の担当をさせていただき、その後高鍋高校のことを思い出すこともありませんでした。同窓会の役を引き受け、いろいろな行事に関わることができました。

在校生の姿を見て感動することもたくさんありました。高鍋高校創立90周年記念式典では「創設から今日までのあゆみ」の記念誌を戴き、明倫堂の素晴らしい教育精神を引き継いで、それぞれの地で活躍をされている方々がたくさんいらっしゃることを、高鍋高校は精神の学校だということが記されていました。

改めて高鍋高校の卒業生であることに誇りを持ちました。後任の女性の副会長には米田礼子さん、山中広美さんと立派な方々にご就任頂きました。これからはOBの立場で、高鍋高校に関心を持ち続け、協力させていただきたいと思っています。

誠にありがとうございます。世話になりました。心よりお礼申し上げます。

新任

新副会長 米田 礼子



25年前の当番時以来のOB祭出席にワクワク・ドキドキ。特に在校生のすばらしいパフォーマンスに最高の感動をいただきました。少しずつ様変わりしながらも繋がり、そして続いているOB祭・鳴海ヶ丘同窓会に、今回改めて向き合える機会を得て光栄に思っています。岩切会長のもと、できるだけのお手伝いをさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ致します。

新副会長 新名 洋文



私は、昭和51年卒の新名洋文でございます。現在は、高鍋信用金庫に勤務しております。

このたび高鍋高校同窓会鳴海ヶ丘会の副会長という大役をお任せいただき、私のような者にはたして務まるかどうか、不安な気持ちでおりますが、皆様のおちから添えをいただき、岩切会長をしっかり補佐し同会のより一層の発展のため頑張らせてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

新副会長 山中 広美



この度、OB会副会長を仰せつかりました山中広美と申します。高鍋町在住、

55年卒です。高校を卒業した後、地元の銀行に勤め、その後いろいろな自営業を営み、3年前までは簡易郵便局の局長をしておりました。現在は、精密機械の製造販売の会社をしております。高校の頃より、何のとりえもなく、地味な私でしたが、何故か毎年体育祭になると応援団をしており、高3の時は副団長を経験しました。OB祭の時も副実行委員長もさせて頂きました。そういった経験を通して、たくさんの方に出会い、出会うから多くのことを学びました。「OB会について何も知らず、役員をさせて頂いてもいいのかわからない」と不安はありましたが、推薦して頂いたことを光栄に思い、微力ですが、勤めさせていただく決心を致しました。先輩方、後輩の皆さんと一緒に、OB会を盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

留任

副会長 石田 喜克



この度、本同窓会、副会長就任2期目に当たり、在京支部、名古屋支部、関西支部、福岡支部の各支部会員の皆様、

宮崎県内の各支部会員の皆様、高鍋高等学校ラグビー部現役諸君が、連続で毎年のように年末の大変お忙しい中にも多大なるご支援を賜ります。誠にありがとうございます。本年も、重ね重ね、倍旧のご尽力とご支援を宜しくお願ひ申し上げます。近々の同窓会100周年に向けて高鍋より素晴らしい風を吹かせられるよう邁進させて頂きます。

副会長 多賀 学昭



昭和46年3月に高鍋高校を卒業して47年。顔だけはずいぶん年をくったものの、頭の中身は15歳の時から

ちつとも成長していかない私です。入学式で松浦三州校長先生が、幕末の志士橋本左内15歳の自戒の書「啓発録」を引いて「稚氣を去れ」と言われたことが今でも忘れられません。高鍋高校での大切な思い出を胸に、同窓会のために頑張りたいと思っております。どうぞよろしく。

支部総会報告

関西支部 事務局長 井川 恭子

平成30年7月22日(土)、ご来賓をはじめ72名が出席して第53回高鍋高等学校関西同窓会を道頓堀ホテルで開催いたしました。

第一部では、会長挨拶・来賓紹介に続き増田秀文鳴海ヶ丘会会長、児玉康裕高鍋高等学校校長、鬼束楨近畿宮崎県人会副会長と黒木敏之高鍋町町長からご挨拶を頂戴した後、議事に入り平成29年度事業報告や会計報告、会計監査報告、平成30年度の事業計画及び予算案が承認されました。

第二部の懇親会は、校歌斉唱で幕を開け、高鍋高校同窓会事務局次長に就任された高木美里先生より近況報告がありました。昨年度天理に女子ホッケー部の応援に行った縁もある高木先生へは今後の活躍に夢が膨らみます。また、ラグビー部石田喜克OB会会長の報告で花園出場を確信し、今冬も応援に行けると思うと心が弾み楽しみます。

大澤忠廣在京同窓会会長の乾杯で懇親会が始まりました。他支部からは福本秀和名古屋支部支部長のご出席もあり、一段と賑やかに歓談できたことは言うまでもありません。

「高鍋高校OB祭」実行委員のみなさんは若さが溢れパワー全開のパフォーマンスに拍手喝采、会場を沸かせました。これからのご活躍をお祈りいたします。お楽しみ、福引き大会で

んが、皆さんからは多くの熱い思いを語って頂き、出された大変貴重な意見は今後の「魅力ある高鍋高校づくり」に活かさせて頂きたいと思っております。

なお、高鍋高校の発展に向けては同窓会のOBの皆さんの熱い思いとご協力が必要であり、その中心は何と言っても同窓会評議員の皆様さんであるということも確認されました。

残念ながら評議員会に出席されない評議員が多くおられることから、その解消に向けた取り組みも大変重要なことであり、同窓会事務局を中心に高鍋支部としても検討していくことを確認しました。

この後、同窓会の増田会長と児玉校長先生を迎えて懇親会を行い、大いに皆さん盛り上がりつつ頂き二次会へと流れて行きました。

高鍋支部総会報告

高鍋支部 支部長 山本 邦統



同窓会鳴海ヶ丘会では「魅力ある高鍋高校づくり」に向けた取り組みをさせていただきます。高鍋支部においても、地元支部として何か手助けになることはないかと諸々の取り組みをして参りました。

本年もその一環として7月4日に歴代の鳴海ヶ丘祭(OB祭)実行委員長の若手の方(ここ10年間)と高鍋高校卒業で現在高鍋高校に勤務されている先生方、それに高鍋支部の役員の方々が、高鍋高校の将来へ向けた意見交換を行いました。紙面の都合で詳細については述べることはできません。

支部総会のお知らせ

名古屋支部総会

11月10日(土)

11:30受付

12:00開会

アパホテル

名古屋栄店1F

ステーキ&ハンバーグ匠

宮崎地区支部合同総会

(宮崎支部・県庁支部・市役所支部)

11月14日(水)

18:30受付

19:00開会

ニューウェルシティ宮崎

福岡支部総会

11月23日(金)

17:00受付

17:30開会

平和楼本店

平成30年度 『結(ゆい)』 高鍋高校OB祭

『結(ゆい)』 ～むすぶつながるひろがる未来～



平成30年度OB祭実行委員会
実行委員長 岡本 啓二



私たちが
平成三十
年度高鍋
高校OB
祭実行委
員会(平成七年卒業生)は、

『結(ゆい)』～むすぶつながる未来～をテーマに掲げ、本番に向けて準備を進めて参りました。OB祭当日は数多くの方々にご来場いただきました事、心より御礼申し上げます。これも鳴海ヶ丘会の皆様や学校関係者、そしてご寄付等を賜りました地域の方々のご支援・ご協力によるものであると心より感謝申し上げます。

八月十一日に開催されたゴルフコンペは生憎の悪天候により一時中断に見舞われるというアクシデントもありましたが、多くの方に最後までプレーいただき、熱気あふれる大会になりました。

八月十一日の記念講演 オープニングイベントでは現役高校生文化部(吹奏楽・書道・美術・写真部)によるパフォーマンスや展示を行い、日ごろ在校生をご覧になることのない方から感動したとの言葉をいただきました。

また、記念講演では、テレビでもお馴染みの脳科学者である茂木健一郎氏を講師としてお迎えし『脳科学からみる、これからの社会で必要とされる力と育み

方』と題し、講演を行っていただきました。これからAIにとって変わる時代が来るの予測もなされている現在において、個性が大事になってくる、また地方に居ても中心となれる時代がやってくる、その上で何を考えようしていくべきかという話を聞くことが出来ました。

OB祭の役員を通じて同窓生みんなと同じ目標に向かい努力する機会を与えていただき、皆さんに助けられながら、こうして役を全うする事が出来たことは私の財産となりました。本当にありがとうございました。

最後になりますが、来年度の高鍋高校OB祭の成功と高鍋高等学校並びに鳴海ヶ丘会、そしてご支援賜りました地域の皆様の更なる発展をご祈念申し上げてお礼の挨拶とさせていただきます。



事業推進局長

齋田 貴史

まず、平成三十年度の高鍋高校OB祭を大成功で終えることができたことに、同窓生全員が安堵感を感じているところです。OBの方々はもちろん、在校生、地域の皆様のご協力なしでは、この結果に結びつくことはなかったと感じております。まさに、今回のテーマ、『結(ゆい)』～むすぶつながる未来～を表現できたOB祭でした。

約一年半の準備期間中には、日本各地でご活躍されている諸先輩方や同窓生との新たな出会い、宮崎在住同窓生との絆の深まりなど、かけがえない繋がりを得ることができました。

OB祭開催は不安や緊張、苦しみなど、大きな負荷となりましたが、それ以上に高い壁を乗り越える喜びを感じさせてくれました。節目の年齢を迎えた私たちに、さらなる成長の機会となりました。今年のOB祭は平成最後のものとなりました。来年のOB祭は新たな時代の幕開けとともにあります。伝統ある高鍋高校OB祭が未来へ大きくひろがっていくこと、併せて高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会の

さらなる飛躍をご祈念申し上げます。感謝のご挨拶とさせていただきます。

事業運営局長

稲田 崇

私たち平成七年卒同窓生のOB祭が始まったのは忘れもしない「平成二十九年三月十二日」でした。高鍋高校を卒業して以来、二十年以上会っていない同窓生との久々の再会に、昔話や今後のOB祭に向けた話が弾んだ記憶がよみがえります。

あの日からOB祭当日まで、各支部総会へ出席させていただき本年度の趣意への理解を求め協力をお願いをし、並行して実行委員会や広報調整会議など数十回に及ぶ打合せを実施してきました。その中では、お互いOB祭をより良いものにしたいく気持ちが強く、様々な意見が飛び交い、全ての意見を集約し、前に進んでいくのも苦勞でした。

実行委員会を重ねるごとに、実行委員の二十一人に加えて、協力する仲間も増え、OB祭当日には百人を超す同窓生が集まりました。まさに、本年度のテーマ『結(ゆい)』～むすぶつながる未来～の成果になったと思えます。

最後になりましたが、来年度の高鍋高校OB祭の成功と、高鍋高校並びに鳴海ヶ丘会の更なる発展を御祈念申し上げます。お礼の挨拶とさせていただきます。



平成31年度OB祭

平成31年度OB祭実行委員会
実行委員長 武末 哲治



平成31年度高鍋高校OB祭実行委員会を担

成8年卒業生を代表いたしました。一言ご挨拶を申し上げます。高鍋高校は創立96年の歴史を誇る学校であり、この伝統ある高校のOB祭に実行委員長として参加できることに大きな喜びを感じております。

私自身、今年度のOB祭ゴルフコンペ「鳴海ヶ丘会」総会、記念講演及び懇親会まで全て参加させて頂きました。改めて高鍋高校の伝統とその重みを実感するとともに、これまで先輩方が築いてこられた伝統や歴史を継承していくことに、身の引き締まる思いで胸がいっぱいになったところです。

さて、私たちが過ごした高校時代を振り返りますと、阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件の発生といった暗い話題があった一方、マイクロソフト社がWindows 95を発売するなど、IT技術により世の中の仕組みが目まぐるしく変化し始めた時代でありました。

来年5月には元号が変わり、私たち平成8年卒業生は新しい元号で初めてのOB祭を開催することになります。これまで諸先輩方が築き上げられたものに、今の時代を生きる私たちのアイデンティティをプラスした「新しい高鍋高校OB祭」が開催できるよう、同級生一同、協力し合いながらそれぞれの役割を実践していきたいと思えます。

最後になりましたが、鳴海ヶ丘会の更なる発展と学校関係者全ての皆様方の今後一層のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして私の挨拶といたします。

表彰関係

Table with columns: 大会名, 競技・部名, 個人or団体, 競技種目, 成績, 学年, 氏名, 上位大会. Lists various sports events and winners.

Table with columns: 大会名, 競技・部名, 個人or団体, 競技種目, 成績, 学年, 氏名, 上位大会. Lists various sports events and winners.

明倫奨学金への寄付のお願い

高鍋高校同窓会鳴海ヶ丘会では、本校卒業生を対象に平成24年度から『明倫奨学金制度』を実施いたしております。この『明倫奨学金制度』は、文武両道を目指し、人物、学力共に優れた高鍋高校卒業生であって経済的理由により、修学が困難である者に対し、学資の給付を行うことにより、社会に有為な人材を育成することを目的としております。

銀行名：ゆうちょ銀行
口座番号：01700-9-141513
加入者名：宮崎県立高鍋高等学校同窓会「鳴海ヶ丘会」
※寄付金から手数料を差し引いた金額をお振り込みになるか、事務局が用意いたしました専用払込取扱票をご利用ください。

高文祭に参加して
私は今回、高文祭の自然科学部門と文芸部門に参加しました。初めての参加だったので、とても緊張しました。自然科学部門ではポスター発表がありました。最初は見て回る側だったのですが、どの発表も深く掘り下げられていて、取り入れてみたいと思いました。次に、文芸部門では、詩のボクシングを見ました。私の詩に対する考えを変えるような発表でした。来年は、文芸部門で発表することがとても楽しみになりました。

第四十回県高校総合文化祭テーマ最優秀賞
「魅せよ文化の心 翔びたて若人 四十年の歴史と共に」
今年度の宮崎県高等学校総合文化祭のテーマに選んでいただき、とても嬉しく思います。テーマを考えた時に、「もっと文化部について知りたい。また沢山の人が文化部の活動を知ってもらいたい。」という気持ちがありました。これからの高文祭や文化部の様々な大会を通して、高校生たちの文化の心や文化活動にかける情熱を沢山の人が知ってもらえると良いと思います。



三年 黒水 優衣

明倫奨学生 近況報告

九州保健福祉大学4年 小松愛沙美

大学4年生になり大学生活もあと1年となりました。卒業論文に就職活動、国家試験勉強と毎日充実した日々を送っています。就職活動では、先日第一希望の施設に内定を頂くことが出来ました。卒業論文では、「大学に進学した児童養護施設出身者の障壁に関する現状と課題」というテーマで研究をしています。仮説を立てた上でアンケート調査や聞き取り調査などを行い、それらを集計、考察という流れで進めています。初めての論文で難しい面もありますが、意味のある研究が出来ているのではないかと思います。国家試験勉強はまだ卒業論文が終わっていないのであまり出来ていない為、これからが本番です。既に2週間ごとに模擬試験を受けていますが、まだ満足する点数が取れていません。社会福祉士の国家試験は合格率が30%前後で難しいです。しかし、これから福祉の現場で働くには持つておいた方が良い資格なのできちんと勉強して必ず合格したいと思っています。資格を大学在学中に取り、福祉の現場で社会福祉士として活躍することが、応援して下さいという方々への恩返しのひとつになると考えています。感謝の気持ちも忘れず、これから精一杯努力していきます。これから一杯努力していきます。ただ勉強を教えるだけでは勉強になりにくいので、とても勉強に悩んでいます。進路相談のつたり、勉強へのやる気を出させたりと勉強を教える以外のことが大変なのを改めて実感しています。ですが、この経験は就職したら必ず役に立つので一生懸命やっています。来年の目標達成のために感謝の気持ちを忘れず日々努力し、笑顔で卒業できるようにします。

前期が終了します。これまでの学校生活について報告させていただきます。まず、学習面では、昨年より実験・実習が多くなりました。食品加工学実験では、味噌や酢、アイスクリームなど原料を加工してそこから作りました。味噌が出来る仕組みや、酢の充填方法、実際に作ったアイスクリームの滑らかさがどれくらいなのかなど、様々なことを学びました。また、加工方法だけでなく、その食品の歴史や地域による食文化の違いも一緒に学びさらに理解を深めることが出来ました。今年は給食実習があり、食券を多くの人に売って給食を提供しました。献立や発注書、栄養媒体、原価計算など経営するにあたって必要なことを班で協力して行いました。秋には臨地実習もあり、私は学校の給食センターに行きます。そこで給食経営の実際を知り、これから現場で活躍できるように自分を成長させていきます。

生活面では、4月から一人暮らしを始めました。掃除も料理もすべて自分でやるのは大変ですが、今では慣れてきたので楽しく毎日過ごしています。大阪で大きな地震が大学に向かう電車の中で起きました。交通が麻痺し、近くに住んでいる友人の家で自宅に帰るようになったまで過酷な日々でした。私が突然来たにもかかわらず、友人の家族は快く受け入れてくれました。また豪雨が続き、時間も家から出られず不安でしたが、高校時代の先輩方が近くにいるので連絡を取り合うなどして過ごしていました。改めて人との繋がりは、どんな時でも大切だと感じました。人に貢献できるような前期中からも頑張ろうと思つた前期中です。

最後に、地元で就職できるように3年生になった今から自分のできることをコツコツ努力していきます。また、教職も取り続けていきます。前期試験がこれから始まりますが、しっかりと勉強して試験を乗り越えていきます。

宮崎公立大学2年 鹿嶋 佑斗

昨年引き続き奨学生として採用いただきましたこと、大変ありがたく思っております。今年度も、頂いた奨学金は今年度の受講料として大切に使用させていただきます。私は前期に、「基幹演習」という講義を受講しました。この講義では、宮崎公立大学の文化祭である凌雲祭を通して地域に貢献できることを考えるといった内容でしたが、グループごとに分かれたので、幅広い年齢層をターゲットにした企画などを考えて提案させていただきました。この講義を通して「地域貢献」というものに興味を湧き、非常に良い経験だと感じました。

宮崎大学教育学部1年 永澤くるみ

宮崎大学教育学部学校教育課程小中一貫教育コース中学校主免専攻に入学して、約3か月が経ちました。入学後の新入生オ

甲子園大学栄養学部栄養学科 生島絵美子

甲子園大学栄養学部栄養学科の3年生となり、まもなく前期が終了します。これまでの学校生活について報告させていただきます。まず、学習面では、昨年より実験・実習が多くなりました。食品加工学実験では、味噌や酢、アイスクリームなど原料を加工してそこから作りました。味噌が出来る仕組みや、酢の充填方法、実際に作ったアイスクリームの滑らかさがどれくらいなのかなど、様々なことを学びました。また、加工方法だけでなく、その食品の歴史や地域による食文化の違いも一緒に学びさらに理解を深めることが出来ました。今年は給食実習があり、食券を多くの人に売って給食を提供しました。献立や発注書、栄養媒体、原価計算など経営するにあたって必要なことを班で協力して行いました。秋には臨地実習もあり、私は学校の給食センターに行きます。そこで給食経営の実際を知り、これから現場で活躍できるように自分を成長させていきます。